WIDE COLOU

ロッキード
S-3A

☆特集☆ イギリス空母アークロイアルの搭載機
特報：チーム・スピリット'78大演習
アリューシャンで米軍の手に渡った零戦

78
JUNE

BUNRIN-DO JAPAN

$3.30

英空母アークロイアルの艦載機
HMS ARK ROYAL & HER WINGS (Photo by Inter-Air Press)

(Photo by Inter-Air Press)

△飛行前の機体点検を受ける892スコードロンのファントムFG.1。左翼下にマトラ155ロケット弾ランチャーが見える。

△Phantom FG.1 of 892 Sqdn. Under the left wing is seen the Matra rocket launcher.

(Photo by Inter-Air Press)

イギリス海軍唯一の固定翼機搭載の空母アークロイアルは1978年12月に退役するが，ここに紹介する写真はその最後の航海を前に集結して訓練中の艦載機。

△発艦した809スコードロンのバッカニアS.2。甲板上の機は手前の2機がバッカニアS.2。その向うがファントムFG.1。

◁892スコードロンのファントムFG.1。機首には1977年のエリザベス女王戴冠25周年記念の塗装を施している。

HMS Ark Royal will be withdrawn from service at the end of 1978 in line with the government policy that no fixed-wing carriers will be needed in the future. This will be her last cruise.

△Buccaneer S.2 of 890 Sqdn starts, leaving one FG.1 and two S.2s behind.

◁Phantom FG.1 of 892 Sqdn, wearing the "77" Jubilee Year markings on the nose.

△飛行甲板で翼を休める849スコードロンのガネットAEW.3。独特の主翼の折りたたみ方がよくわかる。

△Gannet AEW.3 of 849 Sqdn. Note the wing-folding folding method.

▽カタパルト上で発艦準備中の849スコードロンのガネットAEW.3。

▽Gannet AEW.3 of 849 Sqdn preparing for catapult launch.

Participants displayed at Osan AB

米韓合同大演習（3月7日～17日）
“チーム・スピリット’78”参加機

△烏山基地のエプロンに勢ぞろいした“チーム・スピリット‘78”参加機種。

▽手前から0-2A, OV-10A, RF-4C, F-5E, F-4E, F-4D, A-7D, F-111A, AC-130H。

From this side are OV-10A, RF-4C, F-5E, F-4E, F-4D, A-7D, F-111A and AC-130H.

AIRCRAFT PARTICIPATING IN “TEAM SPIRIT ’78”
USF/ROKF JOINT EXERCISE (7~17 March 1978)

△3月13日に行なわれた"ハイウェイ・ランディング"で，高速道路に着陸する韓国空軍のF-5E タイガーII。

△ROKAF F-5E Tiger II approaching the "Falcon Airstrip", 13 March

▽同じく高速道路に着陸した韓国空軍のF-4EファントムII。

△ROKAF F-4E Phantom II landed the highway, the same day

△高速道路に着陸後，道路わきの駐機場に並び燃料を給油する参加機。手前から（各２機ずつ）米空軍のA-7D，F-4E，F-4D，韓国空軍のF-4D，F-4E。
▽パイロットが搭乗し道路わきで離陸待機中のイングランド基地の第23戦術戦闘連隊（23rdTFW)から参加したA-7D。

△Refueling at Falcon Airstrip after landing. Participants are (from this side) two A-7Ds, two F-4Es, two F-4Dx (USAF), and two F-4Ds and two F-4Es (ROKAF).
▽A-7D, participant from 23rd TFW of England AFB, USA, waiting for her turn to take off.

△マウンテンホーム基地の第366戦術戦闘連隊(366thTFW)所属のF-111A。

△F-111A, participant in "Team Spirit '78" from 366th TFW, Mountain Home AFB, USA

◁ハールバート・フィールド基地の第1特殊作戦連隊(1st SOW)所属のAC-130H。

◁AC-130H of 1st SOW participating from Hurlburt Field, Fla., USA.

▽23rd TFW所属のA-7D。機体は下面も上面と同じ3色の迷彩を施したオーバーラップ・カモフラージュになっていて機体のマーク類はすべて黒で記入されている。

▽A-7D of 23rd TFW from England AFB, La. Markings are all black. Overlap camouflage

△主翼下のミサイルランチャーにサイドワインダーAAMを装備した，韓国空軍のF-86F。

△ROKAF F-86F, with Sidewinder AAM under the wing.

▽地上部隊の支援作戦に使用されている，韓国空軍のO-2A。

▽ROKAF O-2A in use for ground support operations.

▽韓国空軍のF-5E。写真でわかるように，機体はグレイの濃淡によるカモフラージュ塗装が施されている。
◁主翼下にサイドワインダーAAMを装備した韓国空軍のF-4E。

◁ROKAF F-4E with Sidewinder AAM under the wing

▽ROKAF F-5E camouflaged gray

米軍用機アルバム
AMERICAN MILITARY AIRCRAFT ALBUM

F-105D "T-Stick II" of 457th TFS, 301st TFW. Markings include the German AF's marking on the nose, the German AF's Jabo 31 marking on the left side of the nose (as shown below), and the flag/arrow and ox markings. Bicentennial memorial painting.

(Photo by R.E. Kling)

(Photo by R.E. Kling)

(Photo by R.E. Kling)

アメリカ建国200年記念塗装をした米予備役空軍第301戦術戦闘連隊(301st TFW)第457戦術戦闘飛行隊(457th TFS)所属のF-105D "T Stick II"。機首には写真のように西ドイツ空軍のマーク、左側の機首には下・左の西ドイツ空軍第31戦闘連隊(JaboG 31)のマークを描いている。

下・中は左主脚カバーに描かれた絵。下・右は右側キャノピー下に描かれた牛の絵。

(Photo by R.E. Ylinen)

△セシルフィールド海軍航空基地で撮影した、空母フォレスタルに搭載されている第81攻撃飛行隊(VA-81)のA-7Eコルセア II

△A-7 Corsair II of VA-81, USS Forrestal. Photo taken at NAS Cecil Field.

▽マクガイア空軍基地で撮影したC-141A。写真のように機体全面がグレイ2色によるカモフラージュ塗装になっている。

▽C-141A in two-tone gray camouflage. McGuire AFB.

△オファット空軍基地のオープン・ハウスに展示された米海軍第7訓練飛行隊（VT-7）所属のTA-4J。機体はアメリカ建国200年記念塗装である。

△TA-4J of VT-7 wearing the Bicentennial marking displayed at the Offutt AFB openhouse.

▽カリフォルニア州ハミルトン空軍基地にある第84戦闘迎撃飛行隊（84thFIS）所属のT-33A。左翼下にはECMポッド，右翼下にはレーダー妨害用のチャフ・ポッドを装備している。

▽T-33A of 84th FIS, Hamilton AFB, Calif. Note the ECM pod under the left wing and the encroaching-radar chaff pod under the right wing.

新着カラーで見るソ連機

USSR AIRCRAFT IN COLOR

MiG-21 PFM "Fishbed F". Note the Atoll AAM launcher.

△フラップをいっぱいに下げ着陸態勢に入ったミグ-21PFM "フィッシュベッドF"。機体のマークはすべて赤で記入されている。主翼下に装備しているのはアトール AAM のランチャー

Tupolev Tu-4, the heavy bomber the USSR manufactured patterned after the B-29 which took refuge in the Soviet territory after a raid over a Japanese facility in Manchuria, July 1944. This plane was under service until 1950 when it was replaced with the Tu-16 and/or Tu-20.

▽ソ連で農業用として開発された単発複用機アントノフAn-2。農業用の他輸送用としても使用できる万能機。写真は東ドイツで使用されている機体。

△アメリカのB-29をコピイして製作したツポレフTu-4重爆撃機。1944年7月に満州の日本軍施設を爆撃してソ連領内にのがれたB-29を手に入れて開発したもので，エンジンは2,300hpのAsh-73TK×4。防御火器はB-29の12.7mm機銃×10よりも強力で，23mmNS-23機関砲×10であった。原型3機，先行量産型20機につづいて，約1,200機が生産され，そのうち約400機は中国へ供与された。写真の機体は先行量産型の1号機（01）である。Tu-4は戦後しばらくソ連空軍の主力爆撃機であったが，1950年末ごろには，Tu-16，Tu-20などと交代して第一線部隊を退いた。

(TASS)

(TASS)

ソ連の新型双発ジェット輸送機An-72。An-72は，現在使用中の短距離輸送用の双発ターボプロップ機An-26の後継機として開発されたもので1977年12月に初飛行を行なっている。写真のように2基のエンジンは主翼上部に装備されており，不整地での離着陸が可能になっている。上はテスト飛行中のAn-72。中は完成前の予想図。

Developed as a replacement for the An-26, the An-72 jet transport made its first flight on December 22, 1977. The engine mounting atop the wing made it possible for the plane to land on unpaved lands.

(TASS)

ソ連戦闘機MiG-21とSu-7

MiG-21 and Su-7

チェコ空軍で迎撃戦闘用に使用されているミグ-21F。F型はミグ-21シリーズの最初の量産型で胴体右側のNR-30 30mm機関砲が取り除かれ，垂直尾翼の面積は初期型より大きくなっている。写真の機体はチェコでライセンス生産した機体で，キャノピー後方の透明窓が廃止されている。主翼下面に装備しているのはK-13アトールAAMのランチャー。

MiG-21F of Czechoslovakian AF. The plane here is the one license-manufactured in Czechoslovakia. No transparent canopy rear window. With K-13 Atoll AAM launcher.

△▽ソ連国内の航空ショーに展示されたミグ-21PFの後期型。PF型では機首のピトー管は上面に移り，ノーズ・コーンも大型になった他胴体上部のVHFアンテナは後方に移動している。また，後期型からは垂直尾翼後部先端に後方警戒レーダが取り付けられている。そして，垂直尾翼の面積の拡大により尾翼前縁のフィレットがなくなった。この後期型では胴体下にGP-9ガン・パックの装備も可能である。

△▽MiG-21PF, later version, displayed at a USSR airshow. The under-the-nose pitot has been relocated to the up-the-nose position, while the VHF antenna moved backward. The later version is fixed with a radar warning device on the vertical tail rear tip. Capable of carrying GP-9 gun-pack.

△▽ソ連の航空博物館に展示されているスホーイSu-7の初期型。初期型では機首上部のピトー管は中央にある他，後期型に見られるような胴体上部のフェアリングなどもない。下の写真で手前に見えるのは同じ場所に展示されているYak-28戦闘機の尾部。

△▽Sukhoi Su-7, early version, displayed at the USSR Air Museum. The tail seen this side is that of Yak-28 Fighter.

△▽前ページと同じ機体。主翼に取付けられた大面積の境界層板や大きな主脚カバーなど細部がよくわかる。機首に書かれている番号から，部隊配備されていた機体と思われる。
この展示場はかなり広いらしく後方には，Tu-114，Tu-22なども見える。

△▽Su-7, the same plane appearing in the previous page. Note the large gear cover and bound layer. Tu-114 and Tu-22 also seen behind this plane.

△西側でフリッパーのコード・ネームをつけている双発エンジンのミグ-21。同機は1961年のツシノ航空ショーで1機が会場上空をフライパスしたのみで，その後姿を現わさず，実験段階で開発は中止されたと思われる。現用のミグ-21よりひとまわり大きく，ノーズコーンが大型で胴体の形状もかなり異なっている。主翼下のミサイルはオールAAM。

△MiG-21, "Flipper". It had a much larger nose cone than the present day MiG-21. It is believed that the development was suspended on the way because it has made no appearance since 1961, when it flypassed over the Aviation Day aishow site.

◁初期型のミグ-21Fを改造した実験機。垂直尾翼付根がかなりふくらんでいることから，補助ロケットエンジンを取り付けた実験用機と思われる。写真の機体の他に胴体下にJATO補助ロケットを装備した機体もあった。

◁Seemingly an experimental aircraft, modification of the early version MiG-21F, to fix an auxiliary rocket engine. Some other planes fixed with JATO auxiliary rocket engine were reportedly, manufactured.

日本に接近したソ連機

SOVIET AIRCRAFT SWEEPING BY JAPAN COAST

去る３月17日，対馬海峡上空を飛行中のTu-95 "ベア"。写真は航空自衛隊築城基地にある第８航空団第６飛行隊の所属機が撮影したもの。

Tu-95 "Bear D" sweeping by over the Tsushima Straight, march 17. Pohto taken by a JSDF plane, flew up in a scramble from Tsuiki-based 6th Sqdn, 8th Wg.

前ページと同じ機体。ベアDは洋上偵察，哨戒の他，対地，対艦用ミサイルの長距離誘導機であるといわれており，写真ではそれに使用されると思われる胴体中央下の大きなレドームがよくわかる。また，このTu-95は最近ではTu-20と呼ばれるようになった。

Bear D, with a large underbelly radome for X band radar, is believed to have an extremely important function in support of operations involving surface to surface and air to surface missiles.

米韓合同大演習
"チーム・スピリット'78"
参加の航空機

去る3月7日から17日まで、韓国において米韓合同による演習"チーム・スピリット'78"が行なわれた。この名称の演習は1966年、67年に続き3回目だが、今回は朝鮮戦争以後の最大規模のものとなった。韓国軍をはじめ、米軍から参加した航空機は制空、地上部隊の支援等に活躍した。ここに紹介するのはその中の主な機種である。

(55ページ本文記事参照)

Exercise "Team Spirit '78", though the third since the end of the Korean War, was the greatest in scale. Aircraft participating in the exercise also varied and active to defend the "frontline of freedom" in the Far East.

F-111A of 366th TFW participated from Mountain Home AFB, Id.

アイダホ州マウンテン・ホーム基地の第366戦術戦闘連隊（366th ＴＦＷ）から参加したＦ-111Ａ。

フロリダ州ハールバート・フィールド基地の第１特殊作戦連隊（1stＳＯＷ）所属のＡＣ-130Ｈ。

AC-130H of 1st SOW from Hurlburt Fld, Fla.

郡山基地駐留の第８戦術戦闘連隊（8th ＴＦＷ）所属のＦ-4Ｄ。右翼下にレーザー誘導爆弾、左翼下にはマベリック対地ミサイルを装備している。

F-4D of 8th TFW, stationed at Kunsan, equipped with laser guided bomb under the right wing and Maverick missile under the left wing.

フィリピンのクラーク基地にある第3戦術戦闘連隊（3rd TFW）から参加したF-4E。

F-4E of 3rd TFW from Clark AFB, R.P.

A-6E of VMA(AW)-121 carrying bombs under the wing.

翼下に爆弾を装備して演習に向う米海兵第121全天候攻撃飛行隊（VMA(AW)-121）所属のA-6E。

演習に向け空母ミッドウェイを発艦する第93攻撃飛行隊（VA-93）所属のA-7E。

A-7E of VA 93 taking off from USS Midway.

A-7D of 23rd TFW from Englynd AFB, La., now landing on a highway

高速道路に着陸するルイジアナ州イングランド基地の23rd TFW所属のA-7D。上左はフライパスするA-7D

このページと右ページは3月13日に行なわれた"ハイウェイ・ランディング"参加機。これには米空軍のA-7D、F-4D、F-4E。韓国空軍のF-5E、F-4D、F-4E各2機ずつが参加した。写真は高速道路に並ぶ参加機。

着陸する8th TFW所属のF-4D。 F-4D of 8th TFW landing on the highway airstrip.

F-4E of 51st COMPW from Osan AB, landing with the help of a dragchute.

ドラッグ・シュートを引いて着陸した烏山基地の第51混成連隊（51st COMPW）所属のF-4E。

Falcon Airstrip, 13 March. Two in a group, from this side: A-7D, F-4D, F-4E (USAF), F-5E, F-4D and F-4E (ROKAF).

ROKAF F-4E, with Sidewinder AAM under the wing.

韓国空軍所属のF-4E。主翼下にサイドワインダーAAMを装備している。

韓国軍が使用しているUH-1N。

韓国空軍のF-5E。機体はグレイ2色の迷彩が施されている。
ROKAF F-5E in two-tone gray camouflage.

韓国空軍の輸送機C-123K。
ROK AF transport C-123K

ROKAF O-2A in use for liaison and ground support.

韓国空軍のO-2A。連絡，地上支援などに使用されている。

主翼下にサイドワインダーAAMを装備した韓国空軍のF-86F。

イギリス海軍唯一の航空母艦であるアークロイアルは、1978年12月に退役することになっているが、ここに紹介した写真は最後の航海を前にして母艦に集結、飛行訓練中の艦載機。上は航行中のアークロイアル、下は飛行甲板で翼を休める艦載機。

HMS Ark Royal, expected to be withdrawn from service at the end of 1978, is now starting for the last cruise. The British Navy will not have any more fixed-wing carrier in the future.

最後の航海に出発する 英空母アークロイアルの艦載機

Photos by Inter-Air press

**HMS ARK ROYAL:
The Royal Navy's last fixed-wing carrier.**

アングルド・デッキから離艦する809スコードロンのバッカニアS．2。

Buccaneer S.2 of 809 Sqdn leaving the ship from the angled deck catapult launcher.

カタパルト上で離艦準備中の892スコードロンのファントムFG．1。手前の機首はバッカニアS．2。

Phantom FG.1 of 892 Sqdn preparing for catapult launch. The nose this side is of the Buccaneer S.2

Phantom FG.1 of 892 Sqdn.

892スコードロン所属のファントムFG.1。

着艦する809スコードロンのバッカニアS.2。

Buccaneer S.2 of 809 Sqdn.

カタパルト上で発進直前の809スコードロンのバッカニアS.2。主翼下にマーテルミサイルを装備している。

Buccaneer S.2 of 809 Sqdn. with Martel missile under the wing, ready to take off.

訓練飛行に向け左舷カタパルトから離艦する892スコードロンのファントムFG. 1

Phantom GF.1 of 892 Sqdn launched from the port side catapult.

主翼を折りたたんでカタパルトに向うバッカニアS. 2。主翼下のラックに訓練爆弾が見える。

Buccaneer S.2 with wing folded. Seen under the wing are bombs for training use.

Sea King HAS.2 of 824 Sqdn dropping a torpedo.

魚雷を投下する824スコードロン所属のシーキングHAS．2。

Gannet AEW.3 of 849 Sqdn.

着艦した849スコードロン所属のガネットAEW．3。

771スコードロン所属のウェセックスHAS．1救難ヘリコプタ。
Wessex HAS.1 Rescue Helicopter of 771 Sqdn.

△ヒューズ航空会社が開発した，TOW対戦車ミサイルのイタリアにおける最初の機上発射実験が，このほどアグスタA 109 ヘリコプタを使用して実施され，33基のミサイルが目標に命中して実験は成功のうちに終った。

△ A TOW anti-tank missile air-to-ground firing test was recently conducted by using Agusta A109 helicopters.

▽マクドネル・ダグラス社が，米海軍の発注で開発中の新型対艦ミサイルの試作4基のうちの第1号基が完成した。このミサイルの特徴は誘導用に電子光学式イメージング・シーカーを使用していることであり，その実用実験が近く行なわれる。

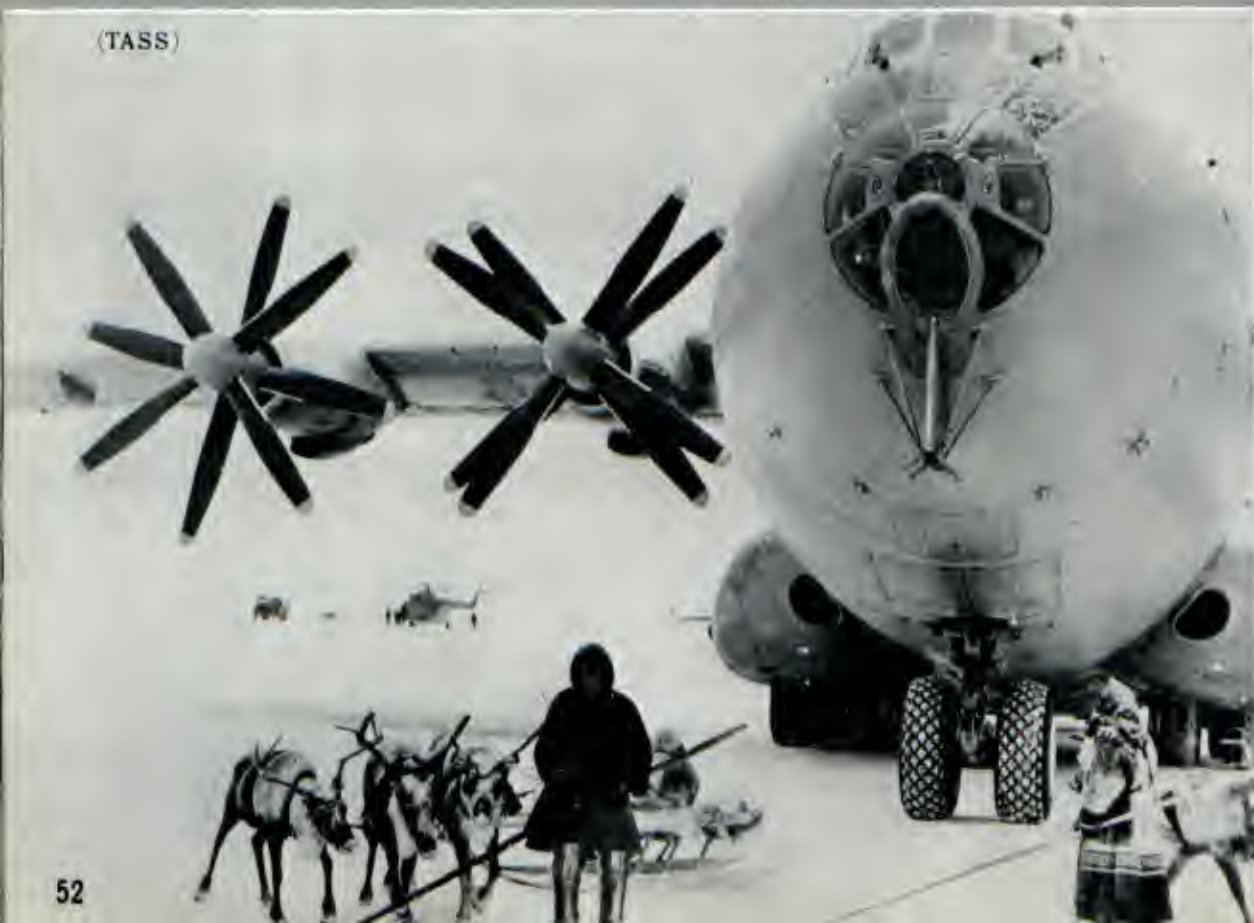
▽ One of four new anti-ship missiles, under development by McDonnel Douglas, was completed. Its operational test will soon be held.

△去る2月初めにスーダン空軍に引渡されたC-130H。機体の迷彩色は白とかっ色が塗装されている。同機の受領でスーダンは世界で43番目のC-130使用国となった。写真はスーダンの首都ハルツームに向け飛行中のC-130H。

△C-130Hs were delivered to Sudan AF in February. Sudan became the 43th nation that received the C-130.

▽北極点に近い，チューメン地方の天然ガス・ステーションへの補給物資の輸送に活躍しているアントノフAn-22。吾季間，この基地への唯一のアシは航空機のみ。後方には同じ任務についているMi-8ヘリも見える。基地内の連絡には写真手前のトナカイのソリが使われている。

▽Antonov An-22 in service for transporting supply to the natural gas field, Tumen, USSR.

(TASS)

(TASS)

◁航空基地の防空レーダー(手前)と着陸態勢に入ったミグ-21MF戦闘機。
▽編隊飛行訓練中の操縦席から見た僚機。胴体上部の形状などからミグ-21PFMAと思われる。

◁ A MiG-21 Fighter came into a landing approach.

▽ It appears to be the MiG21PFMA.

(TASS)

(TASS)

◁愛機に搭乗したパイロット。ヘルメットやキャノピー内部がよくわかる。機体はスホーイSu-7と思われる。また、機体は迷彩塗装が施されているように見える。

◁ Pilot. Sukhoi Su-7 ?

The Bulgarian State Chief was aboard this Tu-154B, when it arrived at Haneda on March 13. By J. Konai, Tokyo.

3月13日にブルガリア国家元首を乗せ羽田にブルガリア航空のTu-154Bが。飛来した写真は18日出発した同機(東京都　古内　淳)。

AV-8A of VMA-231 DET-B, photo-shot at Iwakuni MS by H. Okinaga, Iwakuni.

2月末岩国基地に飛来した海兵第231攻撃飛行隊（VMA-231）DET・B所属のAV-8A（岩国市　沖永博己）。

3月1日羽田空港を離陸するルガ(Luga)チャーター会社のBAC-111-401（市川市　小坂健治）。

BAC-111-401, the Luga-chartered plane, leaving Haneda, March 1. By K. Kosaka, Chiba.

Saab S31 Spitfire P.R. 19

スウェーデン空軍の偵察機《続》

Swedish AF's Recon. Planes

前号につづいて，スウェーデン空軍の制式機となった偵察機を年代順に紹介することにしよう。

〔左上・左下・上〕スウェーデン空軍が戦後購入したスピットファイアP.R. Mk19。P.R. Mk19は，スピットファイアの無武装偵察型としては最後のもので，14型の胴体と改造した5Ｏ型の主翼を組合わせ，グリフォン65エンジンを装備したもの。実用化されたのは戦後である。スウェーデン空軍は，終戦直後に国産の各機が実用化さ

Saab S31 Spitfire P.R. 19

Saab S31 Spitfire P.R.19

れるまでのつなぎとして，ムスタング，モスキート，ベノムなどとともにこのスピットファイアP.R.Mk19を発注，1948年に50機を受領して，1955年まで使っている。スウェーデン空軍の制式名はS31。

〔下〕スウェーデン空軍が1953年末より受領したサーブS29C。サーブ29は欧州で量産された最初の後退翼ジェット戦闘機で，原型1号機は1948年9月1日に初飛行，戦闘機型，攻撃機型，偵察機型の三つのバリエーションにわたって計661機が生産されている。写真は偵察型のS29Cで，自動撮影用カメラ6個を積み，戦闘型にくらべると航法装備も改善されたものとなっている。サーブ29は胴体がまるいかたちで，“タル”のニックネームがつけられていた。

Saab S29C Photo-Recon. Plane

前ページとこのページはスウェーデン空軍が1934年に4機を購入，つづいて42機をライセンス生産したホーカー・ハート　搭載エンジンは，購入機は空冷のブリストル・ペガサスIM2(580hp)，ライセンス生産機はペガサスIU2(550hp)である　空軍の制式名はB4，グロスター・グラジェターとともに，1930年代後半の主力機であった　1939年11月にソ連が隣国のフィンランドに侵攻したさいには，スウェーデン空軍は，救援のためにグロスター・グラジェターとこのホーカー・ハートで編成した航空部隊を派遣してソ連軍を相手に，偵察パトロール，地上部隊の爆撃，夜戦の支援などに出動，参加した9機のハートのうち3機を失なっている　写真は現存するただ1機のハートで，フィンランド空軍のスワスチカ・マークをつけて1939～40年のソ連・フィンランド戦争当時の塗装に復元したもの。

B4 Hawker Hart. (L. G. Soldeus)

Saab S29C Photo-Recon. Plane

〔上〕前ページ下と同じく，スウェーデン国産のジェット偵察機サーブS29C。サーブ29の搭載エンジンは径の大きなデハビランド・ゴーストで，ニックネームの由来となった胴体の独特の形状はこのエンジンによって決められたものである。戦闘機型のJ29Bと偵察型のS29Cで編成したF22戦闘航空団は，1961年のコンゴ動乱のときに国連軍の一員としてレオポルドビル，カミナなどに1963年まで駐留しているが，これは1939年末にソ連軍がフィンランドに進攻したさいに，支援のために同国へ派遣されて以来，スウェーデン空軍史上2度目の海外派遣であった。

〔下〕S32Cランセン偵察機。サーブ32ランセンはスウェーデン空軍の対地対艦船攻撃機という仕様で開発された欧州で最初の遷音速全天候戦闘爆撃機，S29と同じく戦闘機型，攻撃機型の機首を改造してカメラを積んだもので，原型1号機は1957年3月26日に初飛行。S29にく

Saab S32C Lansen

Saab A32A Lansen

らべると写真偵察装備はいちだんと近代化され，夜間偵察　，夜間航法やレーダー偵察のための電子機器も積まれている。スウェーデン空軍には1958年末から装備された。写真では機首のカメラ窓がよくわかる。

〔上・下〕ランセンの全天候攻撃型のA32A。ランセンの最初の生産型がこのA32Aで，1955年末から58年にかけてスウェーデン空軍へ引渡された。A32Aと偵察型のS32Cは，外形上は機首が異っているだけである。このほかに全天候夜間戦闘機型のJ32Bがあるが，A32AとS32Cは現役で，カールスボリ基地のF6攻撃航空団の2個攻撃飛行隊がA32Aを，ニューヒェピング基地のF11偵察航空団が1個飛行隊分のS32Cを持っている。

Saab A32A Lansen

B17, first SAAB built dive bomber. (L. G. Soldeus)

B17 dive bomber (L G Soldeus)

⬆⬇ SAAB社が1937年に設計を開始，1942年から実用化した全金属製複座の急降下爆撃機B17．大きな脚カバーは急降下のさいにダイブブレーキとして使われる．スウェーデン空軍用に130機余が生産され，1942年から1948年まで就役している．

Saab S35E Draken

このページと次ページはサーブ35ドラケン。右上写真は戦闘機型のJ35Aであるが，ほかはすべて偵察型のS35E。サーブ35ドラケンはダブル・デルタの超音速機で，原型機は1955年10月25日に初飛行。戦闘機型のJ35Aは1960年初めからスウェーデン空軍で就役，その後戦闘機型のJ35B，D，F型，練習機型のSK35C，偵察型のS35Eの各型にわたって600機が生産され，スウェーデン空軍のほかに，輸出されてデンマーク，フィンランド両国空軍にも装備されている。

スウェーデン空軍のドラケンは，戦闘，偵察，練習機型いずれも現役で，戦闘機型はJ35DとF型が15個飛行隊に装備されており，偵察型のS35Eはニューヒェピング

Saab S35E Draken

グンゼ産業Mr.カラー

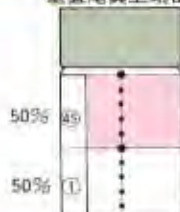
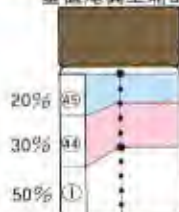
GUNZE SANGYO

ハイモデリングのための塗装マニュアル

(1) 航空自衛隊第1航空団第1飛行隊(浜松基地)所属機

(2) "ブルーインパルス"所属機

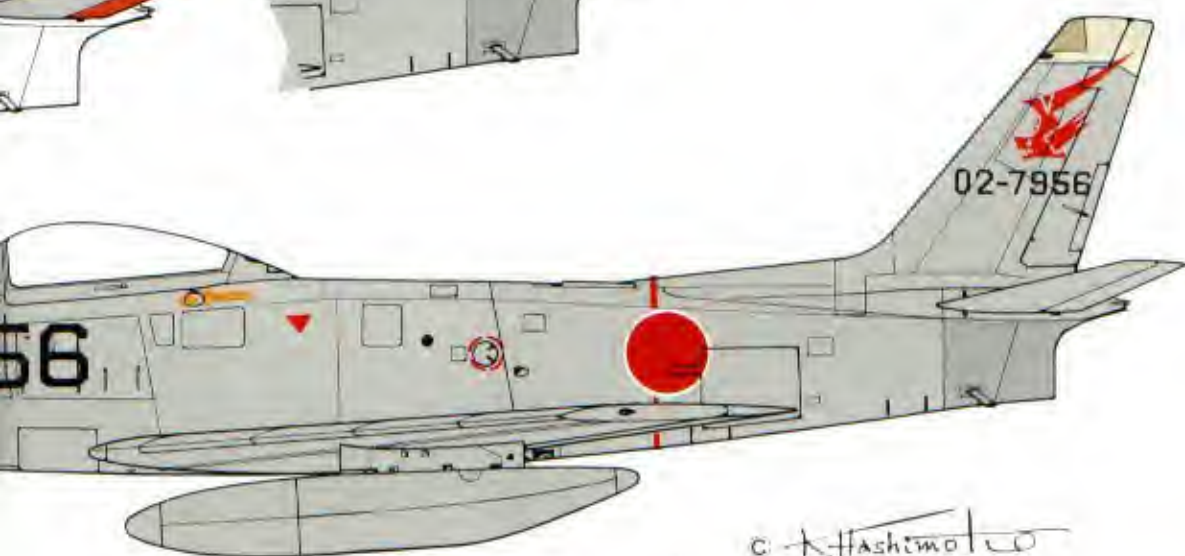
"KYOKKO"

(3) 航空自衛隊第3航空団第8飛行隊(小牧基地)所属機

配合ガイドの見かた

グンゼ・カラーのビンをレイアウトした混色パターンは、左のナンバーがグンゼ・カラーナンバーで、中央の目盛りは混合%を示し、ひと目盛りが10%を示しているが、厳密な混合%を示しても、あまり重要とはいえない個々の色感とかモデル塗装上の個性という問題もあり、あくまでも、この混合比は目安とお考え願いたい。

航空自衛隊のF-86F"旭光"

5　航空自衛隊総司令部飛行隊（入間基地）所属機

4　航空自衛隊偵察航空隊第501飛行隊所属機

© K.Hashimoto

ブルーインパルスのF-86F

↑ "ブルーインパルス"のF-86F。〔右上〕第6航空団第4飛行隊所属であったF-86F，〔右中〕第501偵察航空隊が使用していたF-86F，〔右下〕総隊司令部飛行隊所属のF-86F。

航空自衛隊のF-86Fセイバーの塗装

（その2）

図① 航空自衛隊第1航空団第1飛行隊（浜松基地）所属のF-86Fセイバー（旭光）で，垂直尾翼のマークは黒と黄のチェッカー。以前は，このチェッカーマークの下に，チェッカーの約1/3の幅の帯が記入されており，第1と第2飛行隊を分類していたが，現在は図のようになっている。

図② "ブルーインパルス"の機体で，胴体と翼の上面が白，翼下面とキャノピの周囲が無塗装の銀という塗り分けで，胴体と翼上面にブルーの塗り分けがあり，翼下面の塗り分けは増槽はオレンジレッド，キャノピの下部でブルーの帯の部分に第1航空団のエンブレムが記入されている。機体はF-86，F-40。

図③ 航空自衛隊第3航空団第5飛行隊（小牧基地）所属のF-86F。航空団のマークは名古屋城の金のシャチホコを図案化したもので，赤で記入されている。この第3航空団も，以前の使用機であったF-86Dは，シリアル・ナンバーの下に細い帯を記入し，ライトグリーン（第101飛行隊），黄は（第102飛行隊），青は（第105飛行隊）というように分類マークを使用している。

図④ 航空自衛隊偵察航空隊第501飛行隊（百里基地）所属のRF-86Fで，マークは青は空，黄は部隊を表わし，「レンジを通して宇宙を見る」というイメージのデザインといわれる。

図⑤ 航空自衛隊総隊司令部飛行隊（入間基地）所属のRF-86F。マークの赤・青・黄は北部・西部・中部の3航空方面隊を，またにかけて活動することを示している。

☆グンゼMr.カラー☆

飛行機，自動車，船，鉄道，そして戦車に軍服に至る基本色がそろっているグンゼ・カラーは昔から定評のあるカラー。それぞれの専用色がそろっているが，飛行機の塗装に，これら飛行機以外のカラーを応用するのも，上手なカラーの使い方で，たとえばインシグニアレッドの代用となりそうな鉄道色の（赤2号）とか，同じ銀色にしても飛行機用とはちょっと異なる自動車とか，鉄道用を部分部分で塗り分けてみるという手法もある。

なお，飛行機用にはドイツ機色としてＲＬＭグレーとかF-15イーグル用には，エアスペリオティ・ブルーなどのカラーも新発売中。グンゼ・カラーなら，ほとんど混色の苦労はいらないほどに，それぞれ専用色がそろっている。

（イラストと解説・橋本喜久男）

62-7701
701
62-7457
457
831

Sk15 Klemm Kl35 (L. G. Seidous)

↑ スウェーデンが1938年にドイツより購入，のちにライセンス生産して空軍の練習機となったクレムKl 35. 空軍の制式名はSk15. Kl-35は木金混成の羽布張で，逆ガル翼を装備した固定脚のタンデム複座機．スウェーデンで購入したのは空冷倒立4気筒のハースHM504A-1エンジン(105hp)を装備したKl35Bであった．

↓ スウェーデン空軍の練習機として大戦後しばらくのあいだ装備されていたノースアメリカンT-6テキサン．空軍の制式名はSk16A．現在は同機にかわってSk61ブルドッグが初・中級練習機の主力である．

Sk16A North American Texan (L. G. Seidous)

INDONESIAN AIR FORCE: Days Of Establishment, When The Major Force Was Seized Japanese Planes. (Part 2)

K5Y1 Willows in flight demonstration

旧日本軍用機で武装した

創設期のインドネシア空軍《続》

先月号につづいて、第二次大戦直後に発足したインドネシア空軍が、1946年4月9日、ジャカルタ郊外のマグーワ(Maguwo)飛行場で挙行した創立記念式典の模様。

既述のように、創立のころの同国空軍の装備機はすべてろ獲した日本の軍用機を復元・整備したもので、記念式典ではその各機が観衆の前で飛行ショーを行なった。インドネシアが独立を宣言したのは1945年8月17日。その後2か年間にわたってオランダ軍を相手に独立戦争を戦うことになるが、ここの各機も、オランダ軍拠点の攻撃などに活躍している。前ページとこのページ上と下は、完全な状態でインドネシア空軍の手にわたった93式中間練習機(K5y1)。右上は飛行展示中の93式中間練習機と地上は三菱99式軍偵察機(キ51)、右下は滑走中の立川98式直接協同偵察機(キ36)。

K5Y1 Willow

K5Y1 Willow

K5Y1 Willow and Ki51

…ng is more important than those pictures taken …oguwo Airfield, Jagjakarta, Indonesia on 9 April … when the Air Force was established as part …e Army with Commondore S. Suryadarma as …l of Staff. Most of the aircraft were Japanese …s rebuilt upon seizure into flying condition. …hotos belong to Erlangga Suryadarma, son of …en Chief of Staff.

Tachikawa Ki36

⬇ Lt. Sukotjo enters his Willow for take-off prior to his jump.

創立記念式典当日は、93式中間練習機からの落下傘降下も披露した。写真上・左・右上は同機に乗り込む降下隊員たち。左の写真で後席に手をかけているのはスコトジョ中尉（Lt. Sukotojo）という。93式中間練習機は完全な状態でインドネシア空軍に引きわたされたというが、同写真でクローズアップされたところを見ると、主翼の羽布などははげかかって、ボコボコの状態である。

Col. Adisoetjipto (deceased), who is considered the father of Indonesian pilots, with one of the umpers. He was the fisrt pilot trained by the Dutch, and died in a Red Cross DC-3 shot down by two Dutch Kittyhawks when on a final approach to Jogjakarta airfield.

上の写真の左は、式典当日に降下隊員たちにまじって落下傘降下をしたアジェスチト大佐。同大佐はオランダ空軍の訓練をうけたインドネシアで最初のパイロットで、インドネシアのパイロットの父といわれている人。独立戦争中に、赤十字マークのDC-3でジョクジャカルタ飛行場に進入途中、オランダ空軍のキティホーク2機の攻撃をうけ、撃墜されて戦死した。写真下は旧日本軍パイロットの手で復元・整備された1式陸攻（G4M）。同機はインドネシア空軍へ納入されてまもなく、飛行テスト中に墜落して失なわれている。同機を整備した旧日本軍パイロットはN.シンカイ氏で、現在もジャカルタ在住という。

The Mitsubishi G4M "Betty" bomber taken over by the Indonesians at the end of the War and rebuilt by Mr. N. Shinkai, an ex-Japanese wartime pilot who is still resident in Jakarta. The plane crash-landed on its test flight following its rebuilding and was destroyed.

装備機でたどる 米第5空軍戦史 ⑫

P-61B Black Widow of 547th NFS. (USAF)

WINGS OF 5TH AIR FORCE

〔上〕第547夜間戦闘中隊（547th NFS）所属のP-61Bブラックウイドー。1945年、フィリピンのリンガエン基地で撮影。第5空軍のさん下で闘った夜間戦闘中隊は、第418、第421と第547の3個中隊があり、前2者は爆撃部隊から変ったもので、1944年1月と2月からダグラスP-70を装備して夜間戦闘に従事、同年6月と9月にP-61に機種改変している。写真の第547夜間戦闘中隊は1944年10月に編成されたもっとも新しい部隊で、装備機ははじめからP-61であった。

〔下〕沖縄の本部（もとぶ）基地に並んだ第8写真偵察中隊（8th PRS）のP-38とF-5。1945年8月の終戦まじかいころの撮影。

〔右上〕1945年8月、フィリピンのミンドロで撮影した第58戦闘大隊（58th FG）のP-47D。同大隊は1944年2月から第5空軍の傘下に編入され、P-47Dで戦闘している。

〔右中〕1945年5月20日にフィリピンのルソン島、リンガエン基地で撮影したC-47。第3航空コマンド大隊（3rd ACG）第318兵員輸送中隊（317th TCG）の所属機である。給油中のスナップ。

〔右下〕着陸の事故で土中に機首をめり込ませたC-47。第375兵員輸送大隊（375th TCG）の所属機で、1944年10月23日、カロリン諸島のアンガウワーで撮影。

P-38 and F-5Es of 8th PRS, Motobu, Okinawa, Aug. 1945 (USAF)

P-47Ds of 58th FG, Mindoro, Philippine, Aug. 1945 (USAF)

C-47 of 317th TCG, 3rd ACG, Lingagen, Luzon, 20 May 1945 (USAF)

C-47 of 375th TCG, Carolin Is, 10 October 1944 (USAF)

P-38F of 9th FS, 49th FG, Dobodura, New Guinea, Aug. 1943 (C.R.Anderson)

〔上〕1943年中期にニューギニアのドボズラで撮影したP-38F。第49戦闘大隊（49th FG）第9戦闘中隊（9th FS）の所属機。第49戦闘大隊は南太平洋方面で最初に戦闘に参加した戦闘機部隊で、当初はP-40を装備していたが、第9戦闘中隊は1943年1月から写真のP-38Fに機種改変している。同中隊のP-38Fは、機首両側と垂直安定板両面に白で機番号を書いていた。

P-38G of 9th FS, 49th FG, Dobodura, Autumn 1943. (John G. O'Neill)

P-38F of 9th FS, Dobodura, Aug. 1943 (C.R.Anderson)

〔上〕同じく第49戦闘大隊第9戦闘中隊のP-38Gで、ジョンG.オニール中尉の乗機。同中尉は撃墜機数8機のエースである。1943年秋、ドボズラで撮影。

〔左〕これも第9戦闘中隊のP-38Fと乗員たち。1943年夏ごろ、ドボズラでの撮影。1942年3月から終戦の1945年8月までに第49戦闘大隊があげた撃墜機の戦果は668機で、そのうち278機はこの第9戦闘中隊による記録であった。

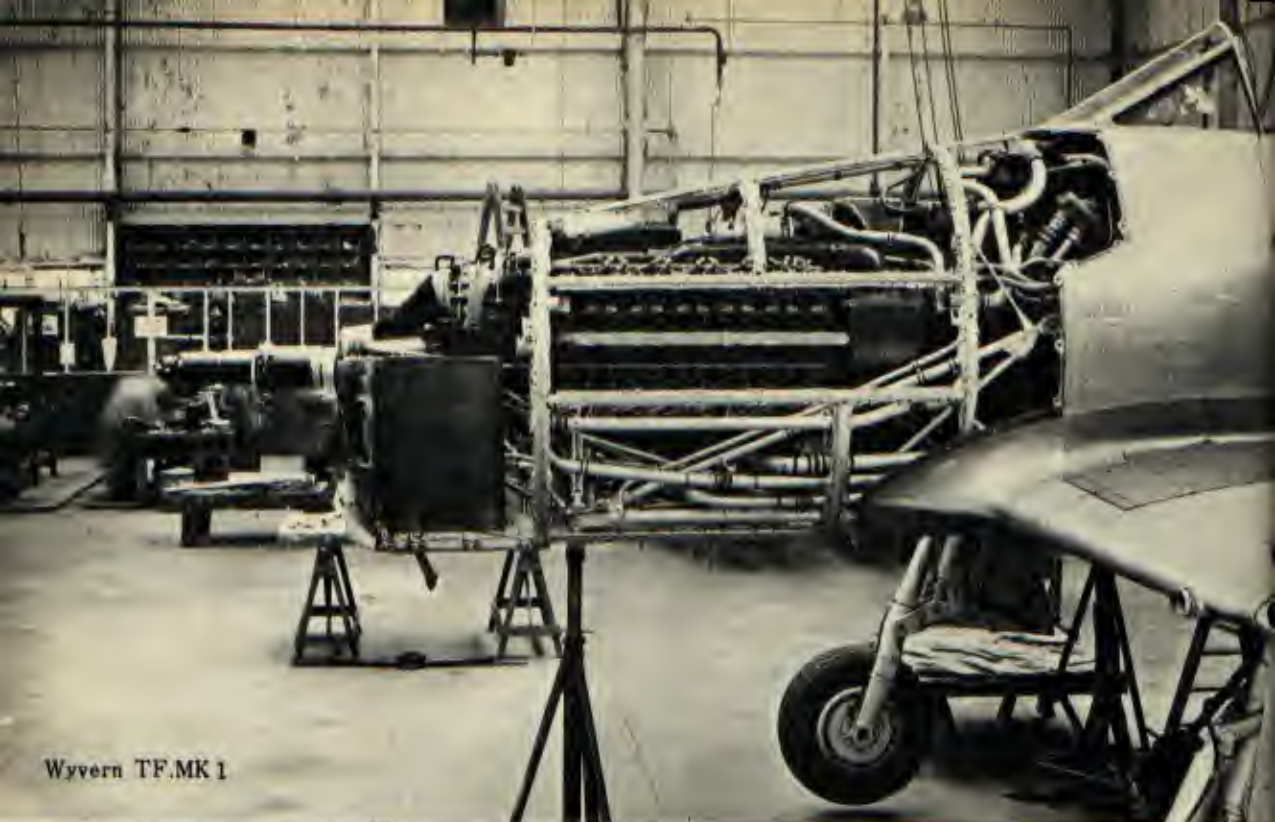
ジェット軍用機の先輩たち

(本文147ページ記事参照)

イギリス編 ⑰

ウエストランド・ワイバーン WESTLAND WYVERN

「ジェット軍用機の先輩」に初めてターボプロップ機の登場である。ピストン・エンジン機から転身した8翅コントラ・プロペラ装備の変りダネ、ウェストランド・ワイバーンはイギリス海軍で最初の単座の雷撃／攻撃機であり、最初のターボプロップ艦上機でもある。写真上と下はピストン・エンジン"イーグル"装備のTF.MK1原型1号機(TS371)。1946年12月7日にボスコムダウンで撮影したもので、この9日後の16日に初飛行した。

Wyvern TF.MK 1

Wyvern TF.MK 1

〔上〕前ページと同じく液冷24気筒のロールスロイス"イーグル22"エンジン(2,600hp)を積んだワイバーンTF.MK 2(W.34)の原型1号機。ワイバーンは当初からターボプロップ・エンジンを積むのがねらいであったが、1944年末、英海軍のN.11/44仕様で開発を始めたころは、適当なターボプロップ・エンジンのにめぐまれず、"イーグル"装備のレシプロ機として発足することになった。この"イーグル"も当時試作されたばかりで、ワイバーンの原型1号機は機体、エンジンともにプロトタイプであった。

〔下・右ページ3枚〕ターボプロップの"クライド"エンジンを装備したTF.MK 2の原型1号機(VP120)。ターボプロップ・エンジン装備したワイバーンは、F.MK 2(W.35)と呼ばれ、最初に選ばれたエンジンはロールスロイス"クライド"であった。同エンジンを積んだVP120は1949年1月18日に初飛行、"クライド"は水噴射で4,500hpと予想を上まわる高性能であったが、ロールスロイスではわずか11基を生産したのみで、同エンジンの開発を中止した。このため、同エンジンを装備したワイバーンはVP120のみである。このあとTF.MK 2は搭載エンジンをアームストロング・シドレー"パイソン"に代えて、VP102を含めて原型3機と先行量産型が13機つくられている。

Wyvern TF.MK 2 (VP120)

Wyvern TF.MK 2 (VP120)

Wyvern TF.MK 2 (VP109)

〔上〕アームストロング・シドレー“パイソン”エンジンを積んだワイバーンTF. MK2の原型1号機(VP109)。“パイソン”エンジン装備の原型はVP109とVP113の2機がつくられ、前者は1949年3月22日、後者は同年8月30日に初飛行した。ワイバーンは結局、この“パイソン”が搭載エンジンと決って、MK 2は原型につづいて先行量産型13機がつくられ、そのうち最後の7機は主要生産型であるS. MK 4仕様として完成した。

〔下・右下〕T. 12/48仕様のもとに試作されたワイバーンの複座練習型T. MK 3 (W. 38)。操縦席の後方を高くして後方の教官席を設けたもので、1号機(VZ739)は1950年2月11日に初飛行したが、量産の発注はなく、この1機が試作されたのみである。同機は1950年11月3日、飛行中にエンジンが故障、不時着して失なわれた。搭載エンジンは同じく“パイソン”である。後席には前方視界をおぎなうために潜望鏡を装備していた。

Wyvern T.MK 3 (VZ739)

Wyvern S.MK 4

(上)主要生産型のワイバーンS. MK 4。S. MK 4は、TF.MK 2の生産型でもあり、当初はTF. MK 4と呼ばれていたが、1953年以降S. MK 4と改称されている。1号機は1951年5月に初飛行、MK. 2の先行量産型をのぞいて90機が生産された。S. MK 4では、水平尾翼両端に小型のフェンスがつけられ、キャノピを強化して、プロペラ先端をヤリの型に整形、エンジン・カウリングの前方を切り欠いたカット・バック式に改めるなどの改造をしている。

ワイバーンS. MK 4が実戦部隊に引渡されたのは1954年4月で、同年9月に空母アルビヨンで初の洋上訓練に出ている。ワイバーンは機体そのものが単座艦上攻撃機という特異なものであったほかに、装備したエンジンがすべて試作型という事情もあって、開発計画は大幅に遅れた。実用までの年数が、設計開始から10年目、原型の初飛行から数えても7年目という、英国の軍用機では開発期間が最も長い制式機であった。

Wyvern T.MK 3 (VZ734)

△前ページのミグ-21と同じ航空ショーに展示されたスホーイSu-7B対地攻撃機。固定武装は両主翼付根にあるNR-30 30mm機関砲だけだが，計6個所のハードポイントにアトールAAM，ロケット弾ポッド，最大2,000kgの爆弾などを搭載できる。

△Sukhoi Su-7B cross support airplane, displayed at a USSR airshow. Six hard points will carry bombs and missiles including Atoll AAM, rockets and 200kg bombs.

▽夜間飛行訓練のためミグ-21に乗り込むパイロット。空気取入口内部やミグ-21PFMから側方開き式になったキャノピーなどがよくわかる。正面写真のため型式がよくわからないが，主翼下の4個所のパイロン，やキャノピー上部のバックミラーなどからミグ-21MFと思われる。

▽MiG-21PFM front view. The canopy opens sidewards.

(TASS)

Saab A35A Draken

基地のF11航空団とルレオ基地のF21戦闘／偵察／攻撃航空団の偵察飛行隊。練習型のSK35Cはリュングブェド基地のF5飛行訓練学校がそれぞれ少数機保有している。

しかしドラケンはいずれもサーブ37ビゲンに代替されることになっており，F11とF21のS35Eドラケンは，今年いっぱいで，SH37全天候洋上偵察機，SF37全天候写真偵察機のビゲン偵察機型2機種に変えられる。F5飛行訓練学校のSK35Cドラケン・コースも廃止されて，ジェット機の訓練はSK60（ブルドック）からビゲンの複座練習型SK37で行なうよう変えられることになっている。

Saab S35E Draken